

これからの大潟村は村民みんなで創りましょう！

大潟村議会議員

黒瀬 友基

2021年4月26日発行

活動報告 No.3

活動報告

ブログ

tomoki.kurose.com



議会閉会から少し時間が経ってしまいましたが、3月議会の内容などをまとめたのでご報告を致します。

お忙しい時期かと思いますが、お時間のある時にご覧ください。

一般質問 施設利用の利便性向上を

現在村内施設の予約は各施設に申し込む必要がありますが、空き状況を個別に確認する手間がかかるため、一元的に予約ができるようにして欲しいと今回質問しました。

回答は、施設ごとの利用目的・許可申請もあるので難しいとのことでしたが、「インターネットで予約状況を確認できるようにすることは検討したい」とのことでした。オンライン予約ができれば理想的ですが予約システム構築の費用も掛かるでしょうし、まずは一元的に予約状況が確認できるようにしてもらえるとありがたいと期待しています。

なお、今回の議会で、令和3年度中の旧保育園の解体も決まりました。「改修して活用を」という意見もありましたが、耐震補強や内部の改修でかなりのコストもかかるため、解体が良かったのではないかと思います。

村の限られた財政の中で管理できる公共施設には限りがあるため、その範囲で住民サービスを充実させるにはどう施設を有効活用するかがますます重要になります。また、この先老朽化した公共施設の改修や建て替えをどうするかという議論も必要になってきます。予約や利用に限らず、公共施設の整備、活用などに関してのご意見があれば是非お教え下さい。

総括質疑 新たな子どもの遊び場整備の状況は

子どもの遊び場に関して、3年度当初予算には計上されていなかったため、総括質疑で現状を確認しました。

今後ワークショップの意見を踏まえた基本方針をまとめる予定で、現時点での整備の方向性は新たな遊び場を中央地区に1箇所、各旧児童館などは極端に遊具が少ないところに幼児用の遊具を整備する(予定)とのことでした。

また、室内で小さな子ども達や小学生が走り回ったり室内遊具で遊んだりできるような場所の整備も考えており、将来的には、交流人口の増加等も視野に入れながら大型遊具の整備も長期的に検討をしているそうです。

今後も具体的な整備計画がすみやかに進むように注視していきます。

私の行った一般質問・総括質疑

＝一般質問＝

1. 新型コロナ感染対策の評価・見直し
2. 村施設利用予約の一元的化
3. ネットを活用した村民向け広報の拡充

＝総括質疑＝

1. 子どもの遊び場の整備の現状
2. 国営かんがい事業の村民への説明
3. ふるさと納税の戦略は

※質問・答弁の概要、および3月定例議会の内容は、4月初旬発行の広報おおがた4月号及び4月15日発行の議会だより143号もあわせてご覧ください。



黒瀬友基 活動報告・座談会

皆さんのお話をきかせていただきたいので、活動報告&座談会を行います！
どなたでも参加可能、申込不要、入退室自由

日時 2021年5月6日(木) 午後7時30分～8時30分 会場 村民センター・和室(事務室前)

- ・マスク着用、体調の悪い方の参加はご遠慮ください。感染拡大、施設の閉鎖などで中止・延期となることがあります。
- ・農繁期中の開催で申し訳ありません。都合がつかない場合でも、ご意見などあればメール・電話でお気軽にどうぞ。

子育て・教育、福祉、農業などなんでも構いませんので皆様のご意見をお聞かせ下さい。

前回報告会の話題・ご意見 八郎湖水質問題(ネオニコ農薬)、子どもの遊び場、財政改革、防災無線のTwitterについて、など

一般質問 インターネットを活用した村民向け広報の充実

直接手元に届く広報やチラシなども重要ですが、新型コロナ対策も含め速報性の高い情報も必要とされる中、今回、村民向けの広報活動でもっとインターネットを活用して欲しい、との質問・要望をしました。

その結果、

- ①見る側の立場に立って利用しやすいホームページの構築を目指す。
- ②Twitterでの防災無線情報の発信は放送と同時に掲載できるよう努める。
また、火災情報についても男鹿地区消防本部と配信に向け協議を行う。
- ③LINE等を活用した村民向けの情報発信はメールの活用を含め検討を行う。



との前向きな回答を頂きましたのでぜひ早急に実現に向けて検討頂けることを願っています。

また、インターネットに限らず既存の広報やチラシなどにおいも、ただ情報を載せるのではなく、**どのような情報が求められているか、どのように載せると理解してもらえるか、**という見る側の村民の視点に立った情報発信を行ってもらいたいと思います。

一般質問のその後 タブレットの積極活用を(令和2年9月定例会)

昨年9月議会、議員になって最初の一般質問が「小中学校でのタブレットの積極的活用を」でした。

その当時は、ギガスクール構想で1人1台のタブレット導入が決まった段階で「**家庭に持ち帰っての利用や村独自の活用策は**」という質問をしました。その際の教育長の回答は「まずは授業中の学習活用を行い、タブレット活用が定着後に多様な活用、家庭学習での活用を行うのが順序である」と、残念ながら積極的な活用には程遠い回答でした。



しかし、今年度から大潟中学校が県のICT活用のモデル校となったこともあり、**先日の中学校PTAでは「長期休暇などの宿題のドリル(問題集)は購入せずタブレットをで行う」という説明がされ、今年度一人一台のタブレット利用が開始されると共に、家庭での利用も含めてタブレットの活用が一気に進みそう**です。本当に嬉しいです。

もちろん、新たな取り組みのため、保護者側で家庭学習をどう見守ればいいのか、セキュリティ対策は、健康への影響は、など様々な不安があると思います。また、実際に使い始めると様々な課題も出てくるでしょう。

学校・教育委員会には各種課題の解決はもちろん、些細と思える点も含めて保護者や生徒の不安を解消するような対応を期待します。また、村での取り組みが県内の他の学校の参考ともなりますので、保護者側も気になる点や要望などがあれば臆することなくどんどん学校や教育委員会に投げかけて欲しいと思います。

新米議員の思うこと：黒瀬 友基 ～国のお財布と村のお財布・初めての予算審議～

今年度、新型コロナ対策で全村民へ飲食券が配布されますが、個人的にはバラマキ型の事業は望ましくありません。

新型コロナの影響を受けた事業者への支援ならば、無料での飲食券配布より、利用する側の自己負担があるプレミアム飲食券の方が税金に加え利用者負担も加わってより大きな飲食業支援になります。ただ、今回は「新型コロナが長く続いている中で村民へ寄り添う形も必要」と言うことで村は飲食券の配布と決めたようです。

なお、今回の事業は国の新型コロナ対策予算(国費)となり、村の直接的負担はありません。日本全体の(マクロの)視点では、もっと新型コロナの影響が大きな地域で予算が使われた方がいいのかもしれませんが、村だけの(ミクロの)視点で考えれば、国の予算があるなら少しでも地域が潤うように使うべきと言う考えも当然出てきます。村の利益を考える立場なら後者の視点であるべきなのかもしれませんが、果たしてその視点だけでいいのかとも思います。

今回の事業に限らず、国(や県)のお財布と村独自のお財布、と言う区別は村の事業を検討する上でなかなか悩ましい話で、今後も頭を悩ませそうです。

さて、今回、自分にとって初めての予算委員会の審議(令和3年度当初予算)でした。各事業の説明を受けた上で、様々な意見や要望を伝えましたが、最終的には予算案に賛成をしました。今年1年間、予算審議で出た意見も反映された形で予算が適正に執行されるかをしっかりチェックしていきたいと思います。

お願い：各住区での活動報告の配布などをお手伝い頂けると大変嬉しいです。ご協力頂ける際は黒瀬までご連絡下さい。